

特選

夕暮れのカリブの風のぬける浜ふたつ言語で進む婚あり
夏暮れて西フランスの港町入り江は引き潮舟傾きぬ

秀作

パタパタと干されしズボン踊りいる風さえ自己を表現しおり
アルゼンチンよりの冷たき風を受けりリング作りに励む移民等
夕さればハタハタと鳴る移民小屋ランプの灯影につどひし昔
この国に住み古りて尚異邦人風に逆らひ老いの道行く
日本祭十五万人集い寄り太鼓の音に日本の風が
和太鼓をドイツの空になしませて差す手引く手の盆おどりの輪
佐木島が光と遊ぶ午下がり青いレモンに青い夏風

佳作

アマゾンの食材見立て準和風作り継がれし移民の料理
アマゾンの数多の蟻塚燃えたたせ原野の果てに夕陽は沈む
夏潮に向く砲身は錆び果てて要塞跡に蚊帳吊草茂る
切り岸に逆さになりて緑食む羊・羊の群れる国なり
カレンダーに娘と孫の帰国日を赤く囲みて父は逝きけり
街灯が涙で見えぬ二人旅無言で進むホスピスへの道
絵に描きて父にこまごま教え置くレンジの操作や飯の炊き方
カチューシャの折れてしまえり風吹く日髪を短く切ること決めぬ

入選

移り住み手塩にかけし農場に風に舞い散るさくらの並木
母国語を風葬するがに忘れつつ第九条のニュースまた見る
コンバスの針のごと立ちくるり見し大豆畑の風の素顔を
風切ってマラソンランナー通り過ぐサンパウロの町坂の町なり

アメリカ 西岡 徳江
フランス 重光 紀子

ブラシル 後藤 弥生
ブラシル 百合由美子
ブラシル 山上 元
ブラシル 富岡 絹子
ブラシル 新井 知里
ドイツ ジーガー 須藤 裕子
フランス 重光 紀子

ブラシル 丸岡すみ子
ブラシル 野口 民恵
ブラシル 広田 ゆき
アメリカ 西岡 徳江
アメリカ 筒井みさ子
アメリカ 関本 なつ
アメリカ 贈答ミルキー
ニュージャージー 川村美砂子
レドニア

ブラシル 神林 義明
ブラシル 滝 友梨香
ブラシル 滝 友梨香
ブラシル 友梨香
ブラシル 申間イツエ

開拓の斧振り土を耕して北風ぬくき国に住み古り
暑き日の地下へと降りる階に涼風昇るいま列車が来た
前輪が成田の土に着くやいな恋いし空気をいつぱい吸い込む
大昔中昔経て今有りぬ余命あずけし戦無き国

日本より電話と呼ばれ冷えし身を沈めしばかりの湯舟跳び出る
とどめたや風化されゆく移民史を爺の語るを問う子等ふたり
三葉つみ湯通しすれば青々と冷麦に添えて夕餉の卓に
さえずりに癒やされ越えし移民坂 時によるこび時に哀しむ
朝六時スクールバスは霽かかるピルの谷間に尻を拾いゆく
ふくらんで旅の仕度を調えた風の便待つバイネイラの棉
秋風や夢路にたどる故郷の空にそびゆる石鎚の山

地下道にバイオリンの調べ流れ風の涼しきひとときありぬ
アマゾンの大河のほとりに腰すえて心ゆくまで歌つくりたし
アルゼンチンは大雪山ならん南吹く風が冷たき此所サンパウロ
大豆畑海原のごと波うたせ南パラナ路風わたりゆく
風邪の友一家揃ひて臥せるとふ訪へば元気な犬が出迎ふ
雪が降る初めての日本感触や胸のたかまり初恋の味

天気良し気分も良しと外に出るアマゾンの朝空気さわやか
ブラジルの風にはためく鯉のぼり日本祭りはいよいよ絶調
大掃除愛着の品捨てきれず迷いまよいてまた元に置く
裏庭に赤や白やとつじ咲き姿は見えねど松虫の鳴く
ブラジルは人種垣塙の気楽さで婆ちゃん元氣かと声かけられる
子供の頃には食べしことなきチョコレート老夫と分けお茶にしようか
前歯抜き帰りし夫の笑顔ありふきだす我に小さきげんこつ
話すこと為すこと少く夫と吾今日三度目のコーヒーを飲む
風に乗るサンバのリズム聴こゆれば浮きつあつ気持ちおさかねおり
ゆつくりとカーテン引けば眠い目に一気に飛び込む真夏の青空
夢でよい逢ひにゆきたし大屯山の原生林吹く風は亡き夫
街角で不意に飛びきしシャボン玉吾が行く前を悠悠よぎる

ブラシル 香山 和榮
ブラシル 足立 有基
ブラシル 足立富土子
ブラシル 武田 知子
ブラシル 寺尾 芳子
ブラシル 後藤 弥生
ブラシル 藤原よし子
ブラシル 西田はるの
ブラシル 山本 康子
ブラシル 内谷 美保
ブラシル 浅海 護也
ブラシル 山上 元
ブラシル 藤田 朝壽
ブラシル 藤田 朝壽
ブラシル 藤田 朝壽
ブラシル 金谷はるみ
ブラシル 広田 ゆき
ブラシル 日高パウロ
ブラシル 新井 慶子
ブラシル 井上富美子
ブラシル 吉田 夏絵
ブラシル 長島 裕子
ブラシル 下小園蓉子
ブラシル マスアオヤギ
ブラシル 金藤 泰子
ブラシル 杉田 征子
ブラシル 中島すす子
台湾 柯王 康子
台湾 柯王 康子
台湾 李 錦上

同意書を持ちくる医師の目合はさず林にそそぐ夏日を見てをり

さりげ無く意見のべたる会友ありてしぶる議案の議決まどかに

朝市に西瓜抱き上げ吾を呼ぶ売娘は愛しよ夏の風吹く

台湾に女総統誕生し苦難の一步踏み出しにけり

穏やかなる晩年とふに縁なくも語らひ合へる友ら居る幸

道の花が散るキャンパスの風に舞う卒業の朝に振り向いてゆく

リユーマチの妻買出しに足を曳き上着にほのかコロンが香る

子ら四人揃ふは稀なり病室に手術終へたる夫を囲みて

秋の野にキキョウ咲けると知らせくる友の便りに故郷を偲びて

日照り雨のあつげらかと小山田を過ぎりしあとにかなかなの声

何しても殻から出られぬそんな日はサーファーとなり海に溶けゆく

ヒューヒューとヌアヌバリの風駆け巡る負けた戦士の泣く声とする

希に見る大夕焼けに立ち尽くす移住のはての望郷の空

長閑なるハワイの野辺に演習の銃撃音が木々を震わす

カラパナの海に落ちゆく溶岩の大水煙は闇を照らせり

ジャスマンの香り微かに風に乗りラナイのふたりを包む夕闇

求め来し白桃ふたつテーブルに並べ眺める今朝の幸せ

音も無く霧が流れるガラス越しプアケニケニの花誘いゆく

東風 洗い髪をばなびかせて夕日落ちゆくワヒアワ辺り

亡き夫の白き遺灰は海原で風に包まれ波間へ消えぬ

若き日の君書ききくしラブレターゆうげの話題に一本つけむ

風鈴の虚ろに響く雨の夜に落語流して笑いを添える

カラコンと京の銘を持つチャイム鳴らし貿易風が軒先を過ぐ

浜に散る海草ひとふさいとおしむ磯の香りの仄かな朝

ひきたてのコーヒートの香の匂いたつねさめの悪きなすきの底に

音絶ちて流るる渦を彫りてゆく製作者はヴィオラの風格を生む

冬の間を眠りし自転車春の陽の風を追いかけ追いかける

百日紅揺れる花かげ月明かり離れし母の無事を願いつ

黒鸚鵡秋空破る雄叫びは郷恋ふ詩か木霊寂しき

台湾 鄭 昌

台湾 鄭 静

台湾 曾 照烈

台湾 莊 進源

台湾 三宅 教子

台湾 郭 文良

台湾 黄 培根

台湾 高 淑慎

アメリカ 中原キヤシー

アメリカ 冷 順子

アメリカ エミコ・コーヘン

アメリカ エミコ・コーヘン

アメリカ 大森 久光

アメリカ 赤嶺 安彦

アメリカ 原 葉

アメリカ 原 葉

アメリカ 近藤 秀子

アメリカ 沖 葉子

アメリカ 沖 葉子

アメリカ 伊藤美枝子

アメリカ 楽満 眞美

アメリカ 楽満 眞美

アメリカ 岡 まなみ

カナダ 湖上 幸江

カナダ 加藤知可子

ドイツ 三原はるみ

ドイツ ジーガー

ドイツ 須藤 裕子

オーストリア 中島みどり

オーストリア 中島 裕康

ぼつねんと枝先赤き冬そうび寒風にふと急ぐ足止まる

海底で出会った魚もビックリか我サンゴ礁で水中歩き

裏庭の熱い北風教えて終のすみかが南半球と

さくら舞う夜空にドドン起こし太鼓風よとどけよ豪州まで

ふるさとの土にもどらぬ赤とんぼ風に乗って異国のここにいる

離陸後の旋回大きく眼下には地図そのままの九十九里浜

オーストリア 坂入美津子

オーストリア 野口 幸子

オーストリア 野口 幸子

オーストリア 野口 幸子

オーストリア パーク利恵

オーストリア 高山 征三

オーストリア 川村美砂子

オーストリア 川村美砂子